



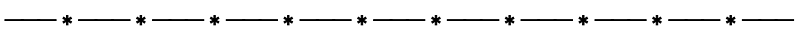
**Data**

監督・脚本：ヴィジャイ・クリシュ  
 ナ・アーチャールヤ  
 出演：アーミル・カーン/カトリー  
 ナ・カイフ/アビシエーク・  
 バッチャン/ウダイ・チョー  
 プラー/ジャッキー・シュロ  
 フ/タブレット・ベセル/ア  
 ンドリュウ・ピックネル

## 👁️👁️ みどころ

『スラムドッグ\$ミリオネア』（08年）も面白かったが、本作もめちゃ面白い。銀行から融資を引き上げられ自殺した父親を目撃した息子による、成長した後の銀行への復讐劇というストーリーの軸は、あの『半沢直樹』と同じ。そして、サーカスとダンスの融合というエンタメ、銀行の金庫破りをめぐる知恵比べ、そしてバイクによるアクロバット・チェイスを中心としたアクションは、お見事！

他方、あっと驚く双子の設定はアラン・ドロン主演の『黒いチューリップ』（63年）と同じ。これによって深みのある人間ドラマになっているうえ、何度も騙されることまちがいなし。そして、最後に待ち受ける涙の人間ドラマ。魅力満載のインド映画に心から拍手！



## ■□■「あの話題作」と同じ、巨大なインドのエネルギーを！■□■

2009年の第80回アカデミー賞で監督賞・作品賞など最多8部門を受賞し、13部門にノミネートされていた『ベンジャミン・バトン 数奇な人生』（08年）（『シネマルーム22』16頁参照）に圧勝したのが『スラムドッグ\$ミリオネア』（08年）（『シネマルーム22』29頁参照）。もっとも、この映画は本当のインド映画ではなく、イギリス人監督ダニー・ボイルの手によるイギリス映画だが、インドを舞台とし、スラム街を始めとするインド色を全面に押し出したことによって、「ボリウッド」が「ハリウッド」に圧勝！同作によって、一躍「男女二人の子役には路上生活は可哀想」ということになり、州政府から一戸40万ルピー（約80万円）のアパートがプレゼントされたそう。

同作の正確な興行収入は知らないが、これを契機としてハリウッド映画は世界中に広がり、『Dhoom』シリーズの第3作として2013年にインドで公開された本作は、なんと47億円の歴代No. 1の興行収入を記録し、インドのみならずアメリカでは公開初週の興行ランキング9位の快挙を達成！その勢いのままイギリス・中国などの世界各国で軒並み歴代インド映画興行収入No. 1となり、全世界で合計90億円の大ヒットを記録。その映画に『チェイス』という邦題がつけられて2014年12月に日本で公開されるわけだが、まさにこれぞエネルギー満載のインド映画だ。シカゴを舞台とした地上、水上、陸上でのバイク・アクロバット・チェイスは本当にすごい。

周星馳監督の『西遊記～はじまりのはじまり～西游 降魔篇』（14年）（『シネマルーム34』188頁参照）は奇想天外のアイデアと、「ありえねー！」アクションが売りだったが、本作のアクションには本場ハリウッド監督もビックリ！

## ■□■形は「復讐もの」。その構成は『半沢直樹』と同じ！■□■

本作は本場インド映画らしく2時間27分という長尺だが、そこにはアクションのみならず、今や日本人がすっかり失ってしまった父子の愛や兄弟愛がいっぱい。子供の頃からサーカスの団長である父親イクバル・カーン（ジャッキー・シュロフ）から厳しく鍛えられてきた息子サーヒル（アーミル・カーン）は、シカゴで一世一代のステージを見せつけたにもかかわらず、シカゴ・ウエスタン銀行の経営者、アンダーソン（アンドリュー・ビッケネル）から、融資の引き上げを宣告され、自殺してしまう父親の姿を目撃。本作は、そこから始まるサーヒルのシカゴ・ウエスタン銀行への復讐ものだ。

したがって、この設定は、昨年ダイヒットしたテレビドラマ『半沢直樹』と同じ。笑福亭鶴瓶扮する父親が経営する小さな町工場は、無常にも産業中央銀行から融資を引き上げられてしまったため、父親は首吊り自殺をしてしまった。それは半沢直樹の子供の頃だが、以降、半沢は頭取を目指して銀行に入り、がんじがらめで固いだけが取り柄の銀行というサラリーマン社会の中で、胸をすくような大活躍を続けていくわけだが、さてサーヒル少年の場合は？

## ■□■物語の本質は父子の愛と兄弟愛！この銀行強盗は？■□■

本作では一世一代のパフォーマンスを見せる父親イクバル・カーンとその息子サーヒルが冒頭に述べる、誓いの決意が全編を貫くテーマとなる。それは「我らは神の子。誰に挑めようぞ。希望の太陽、四方よりいづる。鋼の決意、揺るがぬ歩み。運命を記さんがため、いざ今日行かん」というものだが、これぞプロのショーマン精神だ。アンダーソンから融資の引き上げを宣言される姿を見たサーヒルは子供心ながら父親を心配し、アンダーソンに対して「考え直してくれ！」と頭を下げてお願いしたが、息子がアンダーソンに手を合わせて拝むような姿まで見せると、父親は断固それを拒否。これは、プロとしての仕

事を見せているのだという誇りを失ってはならないという警告を息子に命がけで示したものだ。

それから20数年。シカゴ市内は、大胆な金庫破りの出現に騒然となっていた。「フォー・ホースメン」が見せるマジックをテーマとし、最新・最高のイリュージョンを見せつけてくれた『グランド・イリュージョン』（13年）では、ラスベガスの会場にパリの銀行の金庫から320万ユーロの札束が吸い上げられ、それが巨大ホールの中で「札束の吹雪」として舞い散るマジックに会場はもちろん観客も茫然とした（『シネマルーム32』241頁参照）。そして、最後のニューヨークでの「グランド・イリュージョン」では、金庫の中に眠っているはずの5億ドルの札束が奪い取られ、空からまき散らされたが、本作ではそれと同じシーンが、あの父親の自殺から20数年後のシカゴに登場する。

強盗の被害にあった銀行はシカゴ・ウェスタン銀行。舞い散る紙幣と共にビルの壁を走りおりてきた犯人はバイクに乗って逃走。ここでの犯人と警察とのバイク・アクションが最初の見どころだが、そこで見せるバイクテクニクはとりあえず1本のワイヤーの上を渡っていく程度のもの。シカゴ・ウェスタン銀行の支店はここだけではないから、これからも2度、3度と起きるであろう銀行強盗と、その後の犯人逃走劇の中で次々と展開されるバイク・アクションは次第にそのレベルを上げていくので、それに注目！



© Yash Raj Films Pvt. Ltd. All Rights Reserved.

## ■□■犯人は誰だ？他方、本作の華は？■□■

犯行現場にはピエロの仮面とヒンディー語のメッセージが。これを見てシカゴ警察のビクトリア（タブレット・ベセル）たちが、犯人をインド系と断定したのは当然。そこで、インドから呼び寄せられたのが、インド人の敏腕刑事ジャイ（アビシエーク・バッチャン）とその同僚のアリ（ウダイ・チョープラー）の2人だが、これは「世界の憲兵」としてのアメリカの力が近時弱体化していることと軌を一にするもの・・・？

他方、銀行から奪った金でマジックとダンスの融合した絢爛豪華なショーの準備をしていたサーヒルは、ある日自分に匹敵する卓抜した表現力をもった女性アーリア（カトリー

ナ・カイク)を発掘していた。オーディションに乱入したアーリアが5分間だけ許された自己アピールの中で見せるダンスは本作前半のハイライトなので、それに注目！もっとも、本作は2時間27分の長尺だが、どうしてもサーヒルを中心とした銀行強盗とバイクでの脱出アクションがメインとなるため、ストーリー構成におけるアーリアの役割は少ない。それに代わるものとして、前半の5分間だけの独占ダンス中継と、エンドロールが流れる中での独占ダンス中継があるので、アーリアの魅力はそれで十分味わいたい。

## ■□■第1ラウンドの知恵比べは、サーヒルの勝ち！■□■

それはともかく、第1ラウンドの見どころは、犯人を挑発して第2の犯行を実行させ、その検挙を狙うジャイと、それに乗ったフリをしながら堂々と金庫破りを決行するサーヒルとの知恵比べとなる。ジャイを直接訪れたサーヒルは堂々と素顔を見せながら、犯人はチャーリーという自分の旧友に違いない。自分はその逮捕に協力したいと申し出たから、サーヒルはジャイと共に易々と銀行内部に入り込んでデータを収集したうえで、犯行を決行！そして、金を強奪した後は前回と同じバイクによる脱出劇だが、そのバイク・アクションは追う側も追われる側もパワーアップされているからそれに注目！

プレスシートに大きな文字で、「地上！水上！空の上！？シカゴ大爆走のアクロバット・チェイスが始まる！」と書かれているバイクによるアクロバット・チェイスが展開されるわけだが、地上から水上へはまだしも、潜水艦バイク(?)とは何とも奇想天外！もっとも、逃げるのは1人だが、これを追うのはジャイ、アリの始めとするシカゴ警察全体だから、ついにジャイが放った銃弾が一発サーヒルの左肩に命中。何とか逮捕は免れ、逃げ切ることはできたものの、犯人があの時一緒に銀行の内部を案内したサーヒルだと確信したジャイは、アリの伴ってグレート・インディアン・サーカスへ。そこに乗り込み、サーヒルの背中についている銃弾を示しさえすれば、犯人がサーヒルであることは誰の目にも明らかだ。そんな自信満々の姿でサーヒルにシャツを脱ぐことを強要したから、仕方なくサーヒルはシャツを脱いだが、アレレ。その背中には、キズはもちろん銃弾のあとなど全くなし！こりゃ一体どういうこと！

これにて、第1ラウンドの知恵比べはまんまとサーヒルの勝ちとなり、ジャイのインドNo. 1刑事としての面目は丸つぶれに。

## ■□■『複製された男』と『黒いチューリップ』に注目！■□■

『灼熱の魂』(10年)、『シネマルーム28』62頁参照)、『プリズナーズ』(13年)、『シネマルーム33』139頁参照)というすばらしい作品を生み出し続けているドゥニ・ヴィルヌーヴ監督の『複製された男』(13年)は、友人からのお薦めビデオの中で自分の「そっくりさん」を見つけるというスリルとサスペンスに富んだ映画だった(『シネマルーム33』275頁参照)。そんな「そっくりさん」はめったにいないものではないが、今後遺伝子

研究が進めば、クローン牛をつくるのと同じようにクローン人間を簡単に作れるようになるのかもしれない。しかし、そんなややこしいことをしなくても人間の世界には自然にそっくりさんがいる事例がたくさんある。そう、それは双子の場合だ。

他方1957年のデビュー以来、美男子の代名詞とされたのがフランスの俳優アラン・ドロン。そのアラン・ドロンの若き日のエンタメ作品が『黒いチューリップ』(63年)だ。彼は、その後『アラン・ドロンのゾロ』(74年)でも無能な提督ディエゴと正義の盗賊ゾロを一人二役で演じているが、『黒いチューリップ』では外観は瓜二つだが、性格は正反対の双子の兄弟ジュリアンとギョームの一人二役を演じていた。

## ■□■ネタバレご免!なるほど、そういう設定か!■□■

しかして、本作ではインドを代表する国民的スターで、TIME誌が「世界にもっとも影響力のある100人」の一人にも選出された、アーミル・カーンが本作中盤になって一人二役を演じていることがわかり、観客はあつと驚かされることになる。ホントはこんなネタバレは厳禁だが、これを書かなければ本作の「良さ」を表現することができないので、以下「ネタバレご免」として書いていく。

『黒いチューリップ』にみた双子の兄弟の性格が正反対だったのと同じように、サーカス団の代表としてさまざまな神業をみせるサーヒルは表の男。それに対して子供の頃から父親によってboxの中に隠され、サーヒルの影として生きて来たサマールは裏の男だ。地上、水上、空の上、そして水中でのバイクによるアクロバット・チェイスで、ジャイ、アリをはじめとするシカゴ警察の追及を逃れることができた種明かしをスクリーン上でみるのは何とも不思議な感覚だが、なるほど、なるほど、そういう設定かと納得。

ジャイの銃弾を左肩に受けたのは事実だが、その被害者がサーヒルではなくサマールだったことが、サーヒルに幸い。こんなウラがあったから、「さあ犯人逮捕だ!」と乗り込んできたジャイに対して、サーヒルは悠々と対応することができたわけだ。

## ■□■この双子は性格だけでなく、表現力や表情も大違い!■□■

『複製された男』の原作はノーベル文学賞作品だから、かなりシリアスなストーリーだったが、胸の傷まで同じだったことにビックリ!それほどそっくりなら、ベッドインし、いざエッチに及んでも2人の成り代わりはバレないの?すぐにそんな疑問が湧くが、同作で物語が大きく転換していくのは、「あなたの指になぜ指輪の跡があるの!」という叫び声からだ。しかし、本作では一人二役のカラクリがバレるのは意外に簡単だった。つまり、1人でサーカスの舞台裏に潜入したジャイは、そこでサーヒルとサマールが会話している姿を発見したから、すべてのカラクリを読み解くことに大成功!

そこからジャイが立てた計画が立派なのは、サーヒルとサマールは性格が正反対だけでなく、表現力や表情も大違いであることを利用したことだ。一卵性双生児を売りにし

たザ・ピーナッツやこまどり姉妹は、その性格まではわからないが、表現力や表情も同じだから、観客は容易にその判別がつかなかった。しかし、サーヒルとサマールは表現力や表情が全然違うから、長く接していればその違いに気づくはずだ。まず、ジャイが案じた一計は、すべての時間をサーヒルの影として生きているため、日曜日のわずかな時間しか自由時間のないサマールと友達になり、その内心に入り込むこと。それに成功したジャイは、サマールが秘かに恋心を抱いていたアーリアにアプローチしていくように誘導。

そんな働きかけによって、少しずつサーヒルに対する秘密を持ち始め、少しずつ独り立ちを目指し始めたサマールは、ある日サーカスの表役と裏役を交代するようサーヒルに要求したから、サーヒルはビックリ。当初はそれは絶対ダメと拒否していたが、1回きりという条件でサーヒルがそれをOKしたため、舞台終了後サマールははじめてアーリアとデートをする約束を取り付けることに成功。そして、サーヒルとサマールという双子の兄弟がいることを知ったアーリアから、自分が愛しているのはサーヒルではなくサマールだと聞かされたサマールは有頂天に……。こりゃまさしくジャイの思うつぼだ。こんな風にサーカスの看板をめぐって、またアーリアをめぐって、双子の気持ちが離れていったのでは、シカゴ・ウェスタン銀行に対する最後の強奪作戦の成否は？

## ■□■一人二役のアーミル・カーンの演技力に拍手！■□■

なんせ30年近く影として生きて来たサマールは数字に強く、一度見たデータはすべて覚えているのが取り柄。したがって、最後の目標と定めたシカゴ・ウェスタン銀行の金庫破りの計画は準備万端だったが、それはあくまで兄弟2人の力の結束が前提条件だ。

他方、自分の立てた一計が成功し、今やサマールにとってサーヒル以上に信頼できる友達となったジャイは、サマールに対してサーヒルが計画している最後の金庫破りの決行を思いとどまるよう説得したが、アレレ……。ジャイがサマールと思い込んで説得していた男が、実はサーヒルだったとは！ちなみに、このシーンの字幕では、「自首」と出るべきところが「自主」と出ていたので公開時には修正して欲しいものだ。

さすが、インドを代表する国民的俳優で、本作のために1年以上前から準備をして体操選手のような筋肉質の身体をつくりあげたアーミル・カーンの演技力、表現力はすごい。弁舌さわやかなサーヒルに対して、吃音障害気味のサマール。堂々と人の目を見てしゃべるサーヒルに対して、目を合せることを避けるサマール。いかようにも流れるような表情をつくるサーヒルに対して、時々顔をひきつらせるような表情を見せるサマール。インドのNo. 1刑事ジャイの目を見事に騙すほど、そんな双子の兄弟の違いを演じ分けたアーミル・カーンの演技力に拍手！

## ■□■エンタメ色から俄然シリアス色に■□■

サーヒルがサマールとの二人三脚でここまでやってこれたのなら、ジャイだってアリガ

ジャイの影として十分な力を発揮している。サーヒルに騙されたことによって、ジャイの身体はサマーと一緒によく楽しんだ遊園地のジェットコースターによって真っ二つに！その直前にジャイを救ったのがアリだ。しかし、最後の金庫破りの決行と、そこから逃亡するサーヒル、サマーをジャイ、アリたちが追う最後のバイク・チェイスが本作のクライマックスとなるが、さすが2時間27分のインド映画。そこでも追いつめられた双子がバイクを合体させ、4輪となったバイクが空を飛んで逃走していくアクションを用意している。

しかし、すべてのネタが割れてしまったサーヒル、サマーは次第に追いつめられ、翌朝逃走を図る2台のバイクの前にはSWATのヘリが降り立った。そして、その中からはジャイ、アリと共にアリアの声。場所はダムの上にある一本道。「アリアの声はワナだ。早く逃げろ」というサーヒルの声にもかかわらずサマーが躊躇したため、道の前後は完全にふさがれてしまったから、2人はもはや絶体絶命のピンチに。さあ、そこから本作はエンタメ色から俄然シリアス色に変わっていくから、お立ち合い！

## ■□■お前は自由に生きろ！そんな結末の展開は？■□■

これまでの人生において自分がすべて表を演じ、サマーがすべて裏に回っていたことはサーヒル自身が誰よりもしっかり認識していた。そして、シカゴ・ウェスタン銀行の金庫からの現金強奪作戦もその首謀者は自分で、サマーはその裏方だ。そうだとすると、賢明なインドNo. 1刑事ジャイにそのことを訴え、自分の逮捕と証拠提出と引き換えに、サマーの無罪放免を求めても、それはジャイにとって十分な条件。そう考えたサーヒルが立派なら、それを受け入れたジャイも立派だ。

そこまでジャイの確約をとったサーヒルは、「もはや自分の役割は終わった」とばかりに、道路の上を横っ飛びしてダムの中に身を投じようとしたが、そのギリギリのところサーヒルの手をつかんだのがサマー。このシーンは、かつて父親の下で厳しいながらも楽しいサーカスの訓練を積んでいた子供時代の2人にもあったものだ。しかしその時は、落下しそうになったのはサマーで、ギリギリその手を握りしめたのはサーヒルだった。その時は父親から「死んでも手を離すな！」の声を受けてサマーは助かったが、さて今回は？

「お前はもう俺の影じゃない。サマーとして生きろ」「手を離せ！」と叫ぶサーヒルだったが、そこでサマーから返ってきたのは、「我らは神の子。誰に挑めようぞ。希望の太陽、四方よりいづる。鋼の決意、揺るがぬ歩み。運命を記さんがため、いざ今日行かん」という父親から教えられた決意の言葉のフレーズだった。このままではサマーの力が尽きて、2人ともダム底に転落していくのは必至だが、さてその後の展開は・・・？エンタメ色満載、かつ人間ドラマ満載で、ハラハラドキドキのすばらしいインド映画に興奮し、心からの拍手を送りたい。

2014（平成26）年11月13日記